



事業者向け

冬期の節電メニュー



経済産業省

今冬、電力不足が懸念されるため、自主的な節電にご協力をお願いいたします。

今冬、関西電力・九州電力管内を中心に、電力不足が懸念されます。政府、電力会社におきましては、引き続き供給力の確保に最大限の努力をしておりますが、それでもなお電力需要と供給力にはギャップが発生することが懸念されます。

大変なご迷惑をおかけしますが、電力不足による停電の発生を回避するため、ライフライン機能の維持や生産活動等に実質的な影響が生じない範囲で、以下のとおり自主的な節電にご協力をお願いいたします。

(1) 関西電力管内の場合



平日9:00-21:00
(年末年始は12/29~1/4を除く)

■ 数値目標なしの節電

■ **▲10%以上の節電**

12月							1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
-	-	-	-	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	-	-	-	1	2	3	4	-	-	-	-	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31	-	-	-	-	26	27	28	29	-	-	-	25	26	27	28	29	30	31

(2) 九州電力管内の場合



平日8:00-21:00
(年末年始は12/29~1/4を除く)

■ 数値目標なしの節電

■ **▲5%以上の節電**

12月							1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
-	-	-	-	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	-	-	-	1	2	3	4	-	-	-	-	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31	-	-	-	-	26	27	28	29	-	-	-	25	26	27	28	29	30	31

(3) その他の電力管内の場合 (北海道、東北、東京、中部、北陸、中国、四国)



平日9:00-21:00
(年末年始は12/29~1/4を除く)

■ 数値目標なしの
一般的な節電

12月							1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
-	-	-	-	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	-	-	-	1	2	3	4	-	-	-	-	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31	-	-	-	-	26	27	28	29	-	-	-	25	26	27	28	29	30	31

■ 被災された地域の需要家の皆様へ

特に無理のない範囲でのご協力をお願いいたします。

例えば、昼休みの消灯、使用していないエリアのこまめな消灯等にご協力ください。

■ 寒冷地の需要家の皆様へ

暖房機器の節電にあたっては、特に無理のない範囲でのご協力をお願いいたします。

今冬、お願いしたい「節電」について

① 使用最大電力(kW)の抑制をお願いいたします。具体的には、ピーク期間・時間帯^{※1}におきまして、それぞれの事業所等の前年同月^{※2}の使用最大電力(kW)の値等を目安とした基準からの節電をお願いいたします。

※1 各電力会社管内において節電をお願いする期間・時間帯。

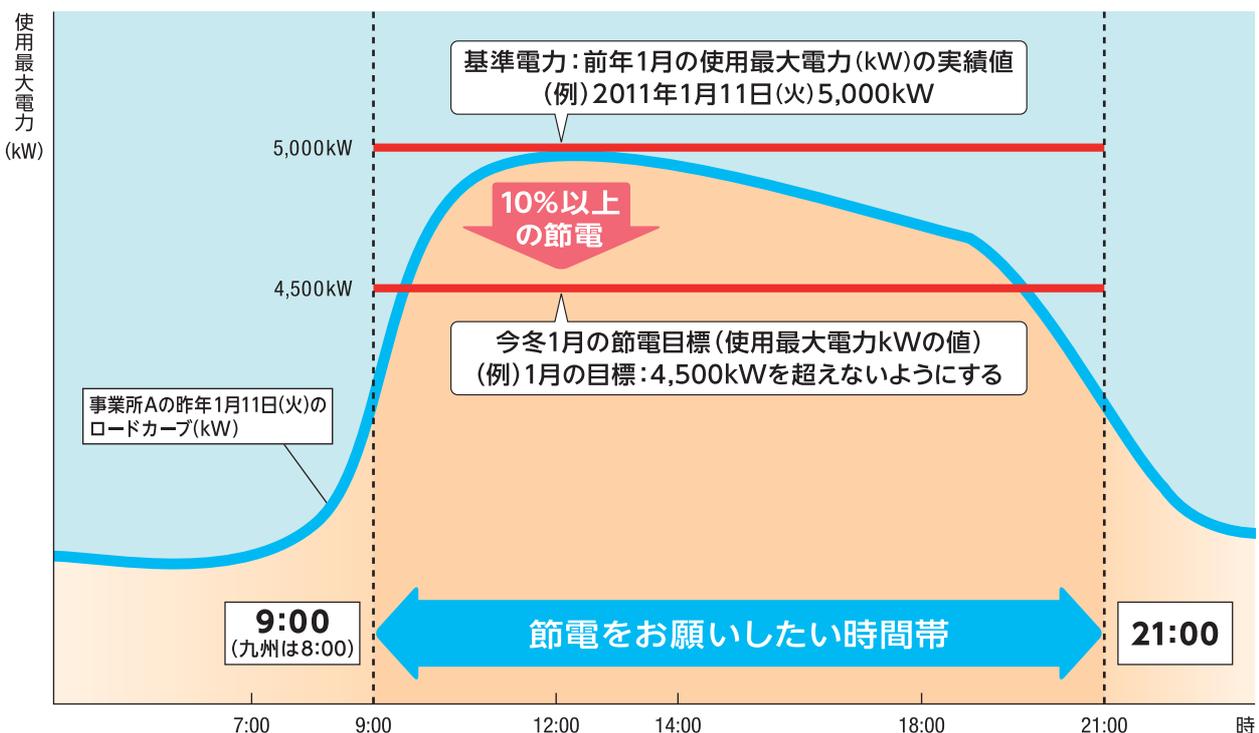
例：関西電力管内であれば、数値目標を設定するのは12月19日-3月23日(年末年始は12/29-1/4を除く)の平日9:00-21:00

※2 2012年1月であれば2011年1月の使用最大電力(kW)等

② 1日(24時間)を通じた電気の使用量(kWh)の合計の抑制ではありません。

【例】 関西電力管内の事業所A(1月)の場合

前年1月の使用最大電力5,000kWに対して、今冬10%以上の節電により、今冬1月における平日(1/3、1/4を除く)9:00-21:00の時間帯は、使用最大電力(kW)が、4,500kWを超えないよう節電へのご協力をお願いいたします。



目次 代表的な業種ごとの節電メニューをご利用いただき、自主的な節電をお願いいたします。

● オフィスビル …… P7、8

● 卸・小売店 …… P9、10

● 食品スーパー …… P11、12

● 医療機関 …… P13、14

● ホテル・旅館 …… P15、16

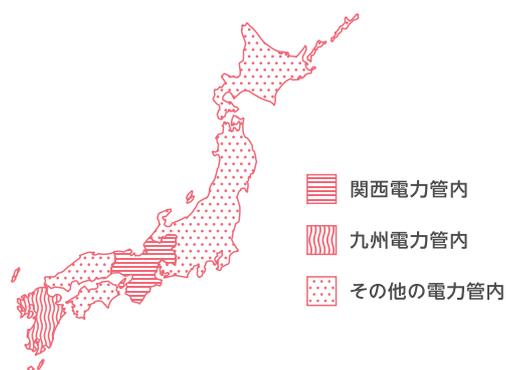
● 飲食店 …… P17、18

● 学校 …… P19、20

● 製造業 …… P21、22

● 記入例 …… P23

各電力管内における 今冬の節電への ご協力をお願い



関西電力管内の事業者の皆さまの場合

<10%以上の節電期間と時間帯>

12月19日～3月23日 平日9:00～21:00 (12/29-1/4を除く)

① 節電目標

- 10%以上の使用最大電力(kW)の抑制をお願いいたします。
- ただし、ライフライン機能等への支障^{※1}や生産活動に実質的な影響を及ぼす場合には、影響が生じない範囲で自主的に目標を設定いただき、節電へのご協力をお願いいたします。その場合には、事業所の業務部門^{※2}については共通目標(10%以上)を上回る節電をお願いいたします。

※1 当該事業所における業務部門以外の部門におかれましては、平成23年夏期の東京・東北電力管内における電気事業法27条の適用に当たっての制限緩和措置の考え方を参考としてください。

※2 業務部門とは、それぞれの事業所における事務・間接部門(オフィス部門等)です。

(例1) 病院: 患者への医療サービスの提供に関する設備・機能を除く事務・間接部門

(例2) 鉄道: 列車の運行に関する設備・機能を除く、事務・間接部門

(例3) 金融業: システムセンターなど取引や情報処理に関する設備・機能を除く事務・間接部門

(例4) 製造業: 製造部門以外の事務所等

② 基準電力

前年同月の使用最大電力の値等を基準の目安としてお願いいたします。

(例: 2012年1月であれば2011年1月の使用最大電力等の値を目安としてください。)

③ 関西電力管内の複数の事業所で共同で取り組んでいただくことも可能です。

<数値目標設定期間外> 12月1日～12月16日・3月26日～3月30日 平日9:00-21:00
経済活動に支障を生じない範囲(照明・空調等の節電等)での節電をお願いいたします。

九州電力管内の事業者の皆さまの場合

<5%以上の節電期間と時間帯>

12月26日-2月3日 平日8:00-21:00 (12/29-1/4を除く)

① 節電目標

- 5%以上の使用最大電力(kW)の抑制をお願いいたします。
- ただし、ライフライン機能等への支障^{*1}や生産活動に実質的な影響を及ぼす場合には、影響が生じない範囲で自主的に目標を設定いただき、節電へのご協力をお願いいたします。その場合には、事業所の業務部門^{*2}については共通目標(5%以上)を上回る節電をお願いいたします。

※1 当該事業所における業務部門以外の部門におかれましては、平成23年夏期の東京・東北電力管内における電気事業法27条の適用に当たっての制限緩和措置の考え方を参考としてください。

※2 業務部門とは、それぞれの事業所における事務・間接部門(オフィス部門等)です。

(例1) 病院: 患者への医療サービスの提供に関する設備・機能を除く事務・間接部門

(例2) 鉄道: 列車の運行に関する設備・機能を除く、事務・間接部門

(例3) 金融業: システムセンターなど取引や情報処理に関する設備・機能を除く事務・間接部門

(例4) 製造業: 製造部門以外の事務所等

② 基準電力

前年同月の使用最大電力の値等を基準の目安としてお願いいたします。

(例: 2012年1月であれば2011年1月の使用最大電力等の値を目安としてください。)

③ 九州電力管内の複数の事業所で共同で取り組んでいただくことも可能です。

<数値目標設定期間外> **12月1日~12月22日・2月6日~3月30日 平日8:00-21:00**
経済活動に支障を生じない範囲(照明・空調等の節電等)での節電をお願いいたします。

その他の電力管内の事業者の皆さまの場合(北海道、東北、東京、中部、北陸、中国、四国)

<数値目標なしの節電期間と時間帯>

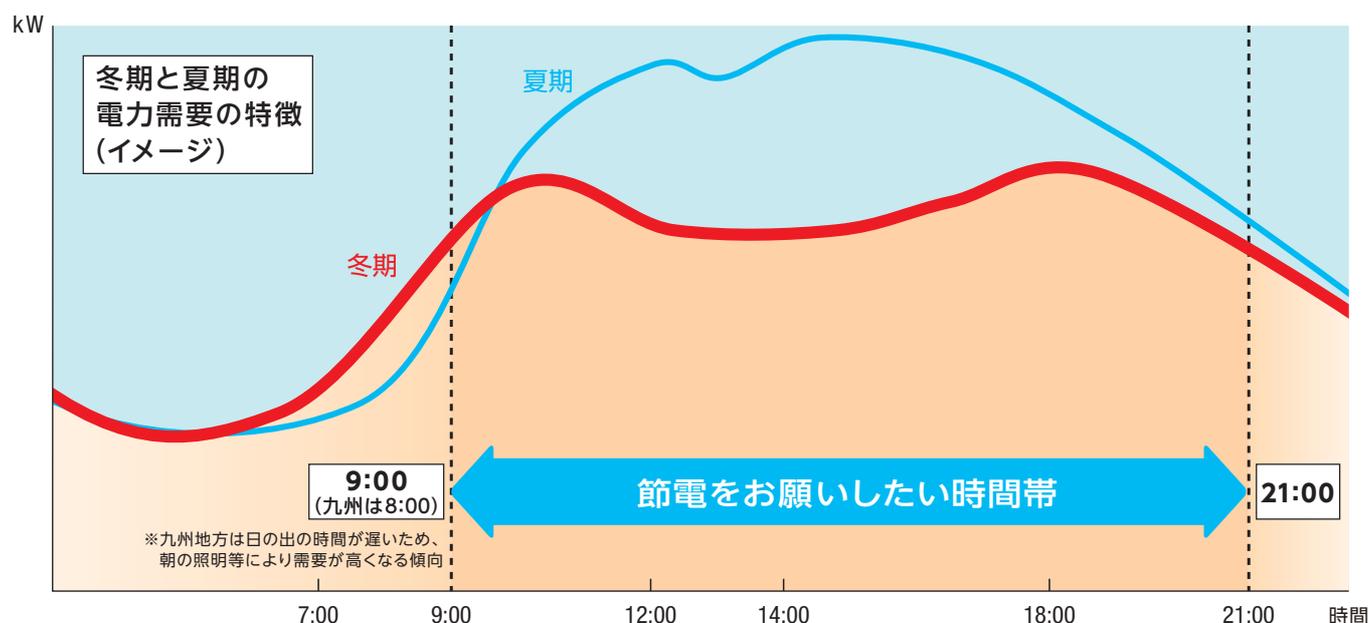
12月1日-3月30日 平日9:00-21:00 (12/29-1/4を除く)

経済活動に支障を生じない範囲(照明・空調等の節電等)での節電をお願いいたします。

冬期の電力需要の特徴

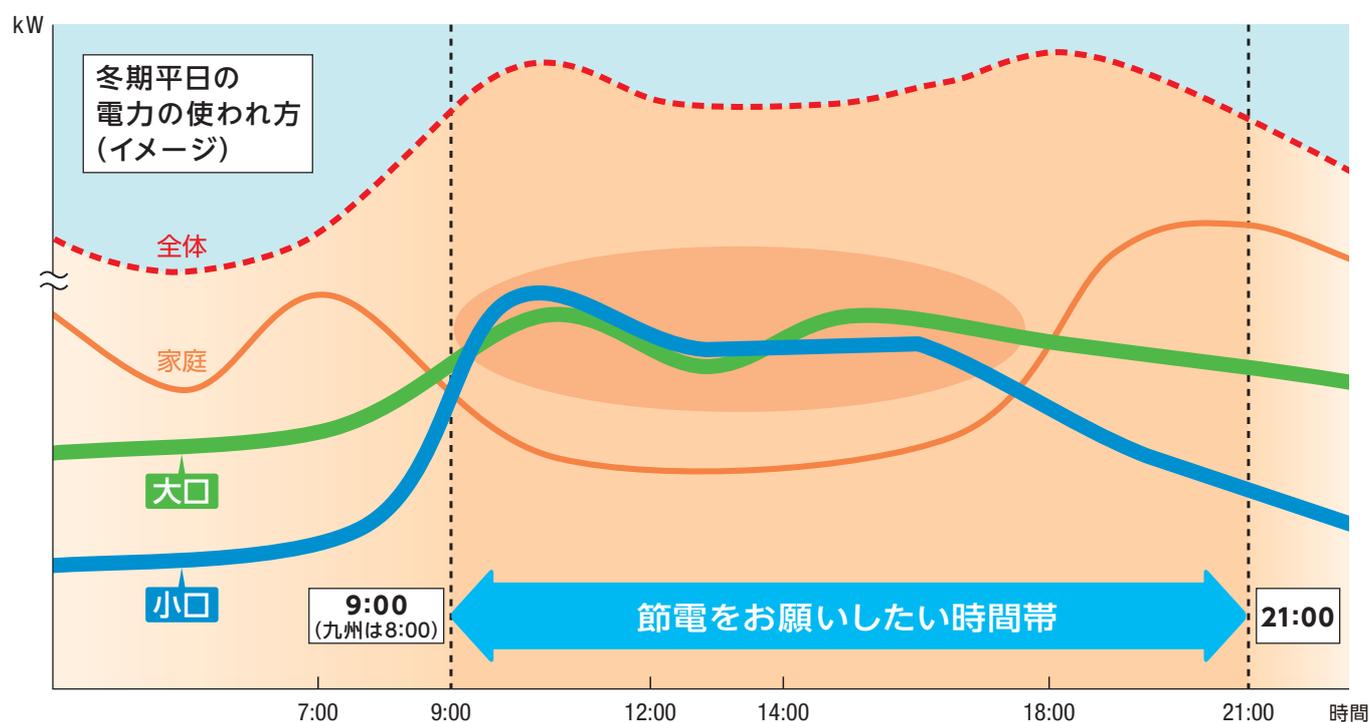
[1] 冬期の電力需要の特徴(夏期との比較)

- ①冬期のピークは、夏期(14時頃)と異なり、朝・夕を中心に長時間となる傾向にあります。
- ②夏期に比べ、夜の需要が下がりにくく、昼夜の差が小さいのが特徴です。



[2] 冬期の電力需要の特徴(大口需要家・小口需要家・家庭別の需要構造)

- ①大口・小口需要家の電力需要は、特に朝10時頃から最大ピークとなる傾向です。
- ②家庭の電力需要は夕方から夜にかけて最大ピークとなる傾向です。



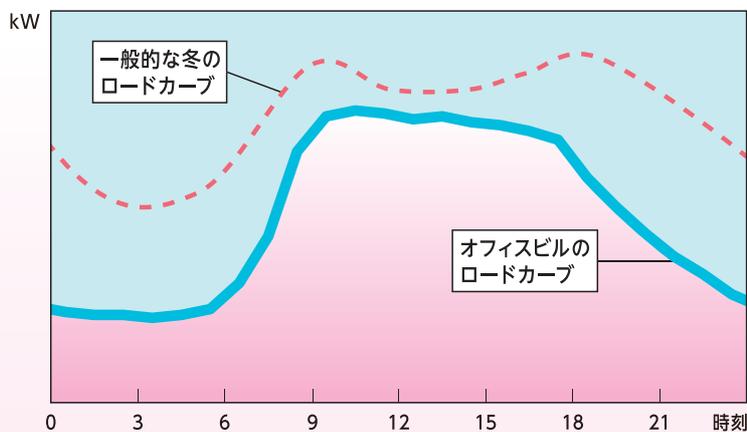
オフィスビル

の場合

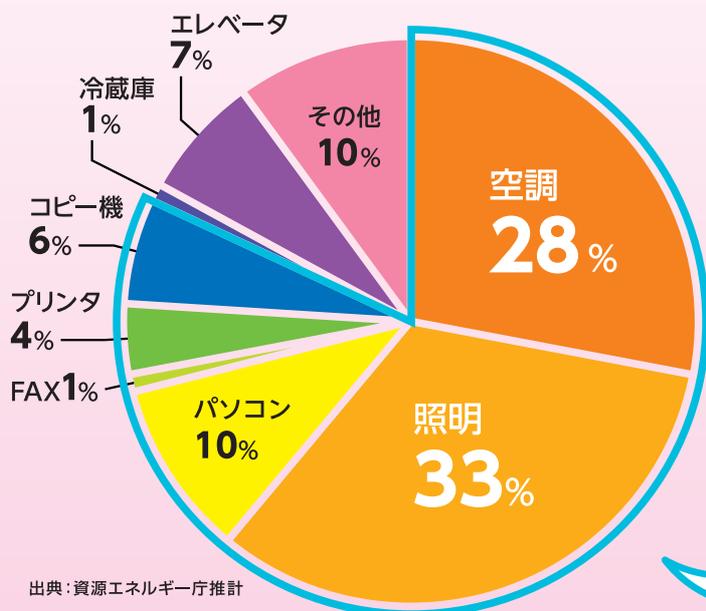
1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

電気による暖房を使用する
オフィスビルにおいては、
館内を暖めるため、
午前中にピークとなります。

オフィスビル(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典：資源エネルギー庁推計



エアコン等の電気による暖房を中心とする
オフィスビルにおける用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、空調用電力が
約28%、照明が約33%、OA機器
(パソコン、コピー機等)が
約21%を占めます。

空調、照明、OA機器で
約82%

これらで電力消費のうち約82%を占めるため、

空調・照明・OA機器の電力使用を見直すことが効果的です。

P8の節電メニューをご利用ください。

➡ P27の「ビルオーナー・テナントの皆様へのお願い」をご覧ください。

●「オフィスビル」の節電メニュー

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。	8%	<input type="checkbox"/>
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3%	<input type="checkbox"/>
空調	テナントは空調のスイッチを切り、オーナーはビル全体が適切な温度になるように調整を行う等、適切な温度管理を行う(P27参照)	4% (3℃下げた場合)	<input type="checkbox"/>
	使用していないエリアは空調を停止する。	1%未満	<input type="checkbox"/>
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	2%	<input type="checkbox"/>
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください			
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	4%	<input type="checkbox"/>
	夕方以降はブラインド、カーテンを閉め、暖気を逃がさないようにする。	1%	<input type="checkbox"/>
	熱源機(ガス熱源は除く)の温水出口の温度を低めに設定し、熱源機ヒートポンプ等の動力を削減する。	1%	<input type="checkbox"/>
	空調機器の一斉の起動を避ける。(運転時間前倒し、フロア毎の時間調整等)	4% (1時間程度の効果)	<input type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。		<input type="checkbox"/>
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input type="checkbox"/>
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input type="checkbox"/>
	電気室、サーバー室などで冷房を使っている場合には、可能な限り冷房を使わずに外気を取り入れる。または、空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		<input type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそれらを優先運転する。		<input type="checkbox"/>
	暖房と冷房の同時使用による室内混合損失を避ける(P27参照)		<input type="checkbox"/>
コンセント動力	ハロゲンヒーター等の暖房機器を個人で使用しない。		<input type="checkbox"/>
	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。		<input type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input type="checkbox"/>
	自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。		<input type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input type="checkbox"/>
	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		<input type="checkbox"/>
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です			
節電啓発	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。(P27参照)		<input type="checkbox"/>
	節電担当を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input type="checkbox"/>
	従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input type="checkbox"/>

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

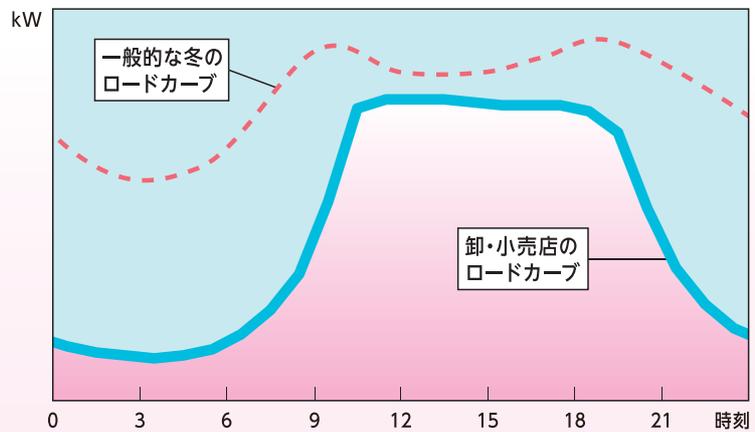
卸・小売店 〔百貨店、ドラッグストアなど〕

の場合

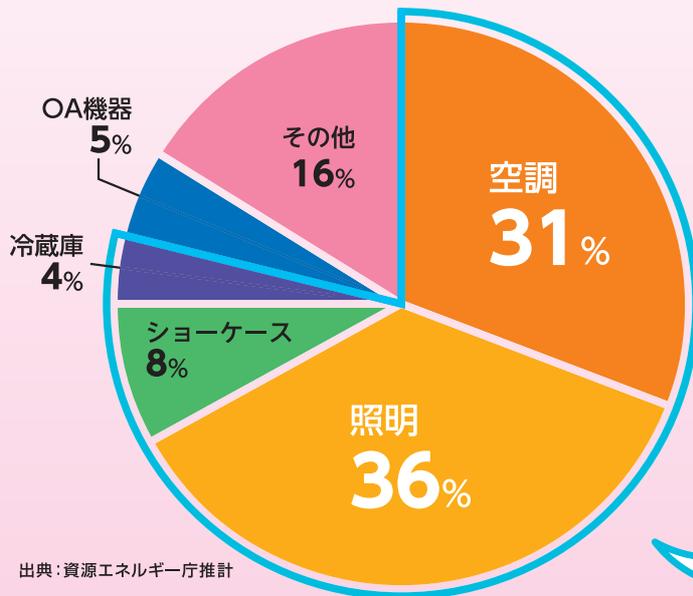
1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

平均的な卸・小売店においては、
昼間(8時～21時)に
高い電力消費が続きます。

卸・小売店(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典：資源エネルギー庁推計



一般的な卸・小売店における
用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、空調が約31%、
照明が約36%、冷凍冷蔵(冷蔵庫、
ショーケース等)が約12%を
占めます。

空調、照明、冷凍冷蔵で
約79%

これらで電力消費のうち約79%を占めるため、
空調・照明・冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)の
電力使用を見直すことが効果的です。

P10の節電メニューをご利用ください。

● 「卸・小売店」の節電メニュー

4つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	10%	<input type="checkbox"/>
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	3%	<input type="checkbox"/>
空調	暖房を使用する必要がある場合、店舗の室内温度を19℃とする。	8% (3℃下げた場合)	<input type="checkbox"/>
冷凍冷蔵	業務用冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	1%	<input type="checkbox"/>
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください			
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	12%	<input type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input type="checkbox"/>
空調	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。		<input type="checkbox"/>
	室内温度が高い場合は、冷房を使わず、可能な限り外気の導入で対応する。		<input type="checkbox"/>
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input type="checkbox"/>
	暖気を逃がさないよう、断熱フィルム、夕方以降は厚手のカーテン等を活用する。		<input type="checkbox"/>
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場への冷気流入を防止する。		<input type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそれらを優先運転する。		<input type="checkbox"/>
冷凍冷蔵	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		<input type="checkbox"/>
	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにするとともに、定期的に清掃する。		<input type="checkbox"/>
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースについては、冷気が漏れないようビニールカーテンなどを設置する。		<input type="checkbox"/>
コンセント動力	デモンストレーション用の家電製品などはできる限り電源をオフにする。		<input type="checkbox"/>
	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。		<input type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input type="checkbox"/>
	自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。		<input type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input type="checkbox"/>
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input type="checkbox"/>
従業員への節電の啓発も大事です			
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		<input type="checkbox"/>
	節電担当者を任命し、責任者(店長、部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input type="checkbox"/>
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input type="checkbox"/>

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

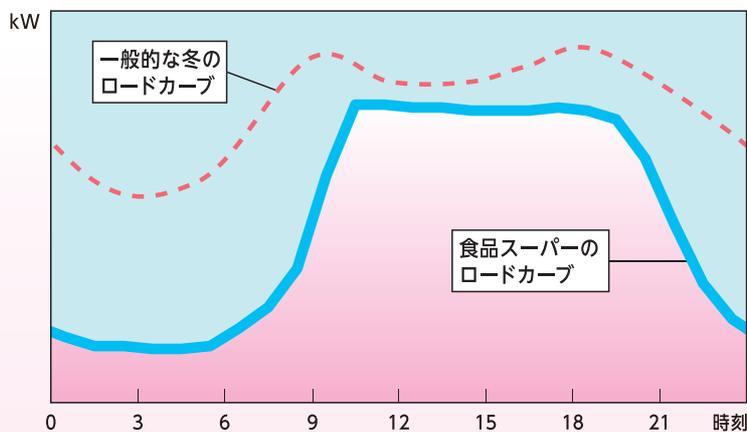
食品スーパー

の場合

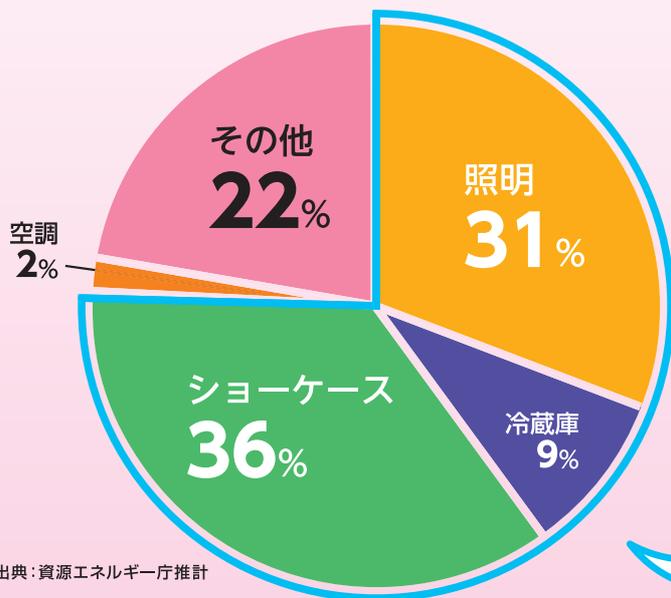
1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

平均的な食品スーパーにおいては、
営業時間帯(10時～21時)に
高い電力消費が続きます。

食品スーパー(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典：資源エネルギー庁推計



出典：資源エネルギー庁推計

一般的な食品スーパーにおける
用途別電力消費比率

電力消費の内訳

(冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、冷凍冷蔵(冷蔵庫、
ショーケース等)で約45%、
照明(一般照明、ショーケース用照明)
が約31%を占めます。

照明、冷凍冷蔵で

約76%

これらで電力消費のうち約76%を占めるため、
照明・冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)の
電力使用を見直すことが効果的です。

P12の節電メニューをご利用ください。

●「食品スーパー」の節電メニュー

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	10%	<input type="checkbox"/>
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	2%	<input type="checkbox"/>
空調	暖房を使用する必要がある場合、店舗の室内温度を19℃とする。	1%未満 (3℃下げた場合)	<input type="checkbox"/>
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。	1%未満	<input type="checkbox"/>
冷凍冷蔵	業務用冷凍・冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	6%	<input type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input type="checkbox"/>
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。		<input type="checkbox"/>
	暖気を逃がさないよう、断熱フィルム、厚手のカーテンなどを活用する。		<input type="checkbox"/>
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input type="checkbox"/>
	室外機周辺の障害物を取り除く。		<input type="checkbox"/>
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場への冷気流入を防止する。		<input type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそれらを優先運転する。		<input type="checkbox"/>
冷凍冷蔵	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにするとともに、定期的に清掃する。		<input type="checkbox"/>
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースに冷気流出防止用ビニールカーテンを設置する。		<input type="checkbox"/>
	調理機器、業務用冷凍・冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		<input type="checkbox"/>
コンセント動力	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。		<input type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input type="checkbox"/>
	自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。		<input type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input type="checkbox"/>
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input type="checkbox"/>
従業員への節電の啓発も大事です			
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		<input type="checkbox"/>
	節電担当者を決め、責任者(店長・部門長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input type="checkbox"/>
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input type="checkbox"/>

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

医療機関

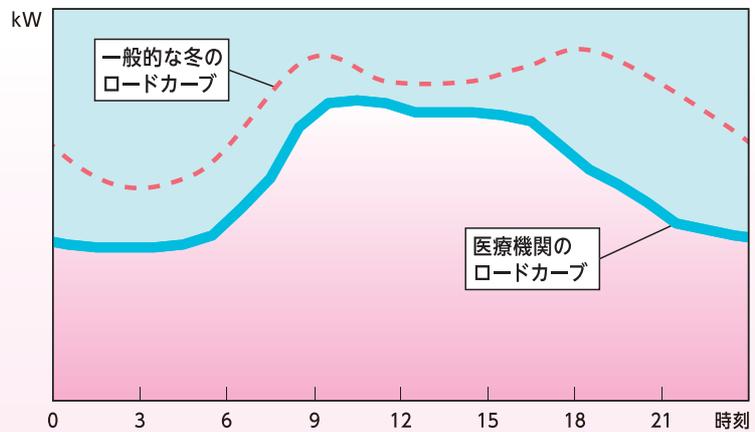
[病院、
診療所など]

の場合

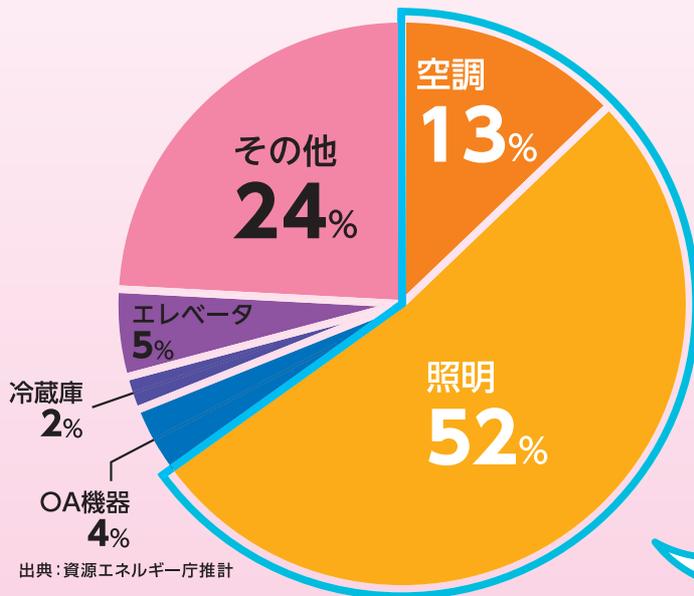
1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

平均的な医療機関(病院・診療所等)においては、昼間(9時~18時)に高い電力消費が続きます。

医療機関(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典: 資源エネルギー庁推計



出典: 資源エネルギー庁推計

一般的な医療機関における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、空調が約13%、照明が約52%を占めます。

空調、照明で
約65%

これらで電力消費のうち約65%を占めるため、**空調・照明**の電力使用を見直すことが効果的です。

P14の節電メニューをご利用ください。

●「医療機関」の節電メニュー

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	事務室の照明を半分程度間引きする。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>
	使用していないエリア(外来部門、診療部門の診療時間外)は消灯を徹底する。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>
空調	病棟、外来、診療部門(検査、手術室等)、厨房、管理部門毎に適切な温度設定を行う。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>
	使用していないエリア(外来、診療部門等の診療時間外)は空調を停止する。	1%未滿	<input checked="" type="checkbox"/>
	夕方以降はブラインド、カーテンを閉め、暖気を逃がさないようにする。	1%未滿	<input checked="" type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input checked="" type="checkbox"/>
	病棟では可能な限り天井照明を消灯し、スポット照明を利用する。		<input checked="" type="checkbox"/>
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>
	搬入口の扉やバックヤードの扉を必ず閉め冷気流入を防止する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそれらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>
コンセント動力	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		<input checked="" type="checkbox"/>
	電気式オートクレーブの詰め込み過ぎの防止、定期的な清掃点検を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。		<input checked="" type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>
	自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>
医療機関関係者への節電の啓発も大事です			
節電啓発	節電目標と具体策について、職員全体に周知徹底し実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	節電担当者を任命し、責任者(病院長・事務局長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	医療機関関係者に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

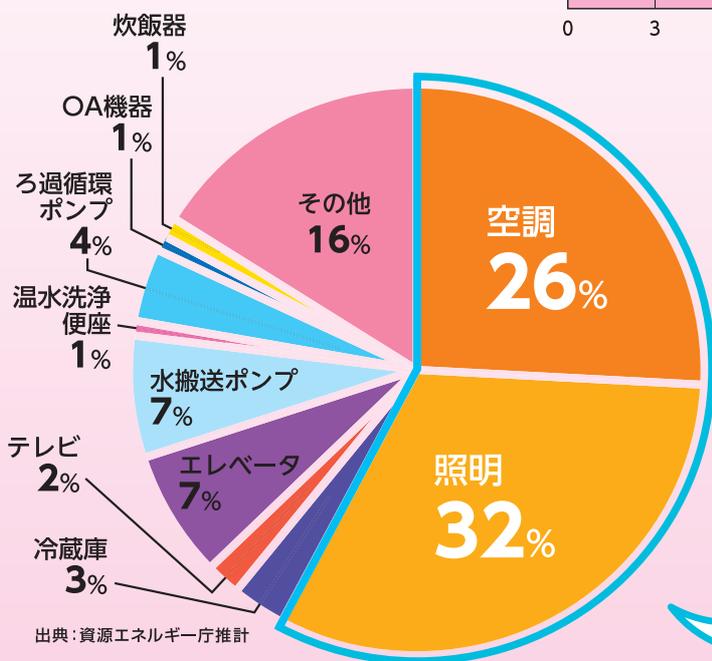
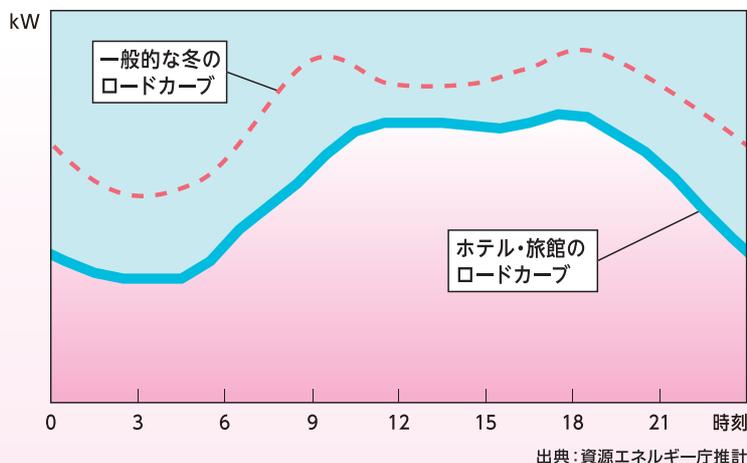
ホテル・旅館

の場合

1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

ホテル・旅館においては、
23時以降の深夜～朝9時頃の
夜間以外は高い電力消費が
続きます。

シティホテル(事例)における電力需要カーブのイメージ



電気による暖房を中心とするホテル・
旅館における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、
空調が約26%、照明が約32%を
占めます。

空調、照明で
約**58%**

これらで電力消費のうち約58%を占めるため、
空調・照明の電力使用を見直すことが効果的です。

P16の節電メニューをご利用ください。

●「ホテル・旅館」の節電メニュー

3つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	客室以外のエリアの照明を半分程度間引きする。	14%	<input type="checkbox"/>
空調	使用していないエリア(会議室、宴会場等)は空調を停止する。	1%	<input type="checkbox"/>
	ロビー、廊下、事務室等の室内温度を19℃とする。	2% (3℃下げた場合)	<input type="checkbox"/>
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください			
空調	客室外気給気／浴室排気システムの場合は、10時～17時の送風量を50%風量、または停止する。	3%	<input type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input type="checkbox"/>
	宴会場の準備、片付けの際には一般照明のみ点灯し、演出照明(シャンデリア等)は消灯する。		<input type="checkbox"/>
	宿泊客への協力要請を通じて、客室の照明を抑制する(使用していない照明の消灯等)。		<input type="checkbox"/>
空調	厨房排気を確認し適正な風量に調節する(過大な場合は外気を誘引してしまうため)。		<input type="checkbox"/>
	車の動きが少ない時間帯の駐車場給排気ファンの間欠運転をする。		<input type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそれらを優先運転する。		<input type="checkbox"/>
	暖気を逃がさないよう、遮熱フィルム、夕方以降は厚手のカーテン等を活用する。		<input type="checkbox"/>
	宿泊客への協力要請を通じて、客室の空調を抑制する(温度設定を下げる等)。		<input type="checkbox"/>
コンセント動力	客室冷蔵庫のスイッチは「切」で待機する。		<input type="checkbox"/>
	給湯循環ポンプの10時～17時(空室時)の流量削減または停止する(中央給湯方式)。		<input type="checkbox"/>
	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。		<input type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input type="checkbox"/>
	自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。		<input type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input type="checkbox"/>
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		<input type="checkbox"/>
従業員や宿泊客への節電の啓発も大事です			
節電啓発	施設全体の節電目標と具体策について、従業員全体に周知徹底し実施する。		<input type="checkbox"/>
	節電担当者を任命し、責任者(支配人・部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的実施する。		<input type="checkbox"/>
	館内での貼り紙などを通じて宿泊客へ節電を呼びかける。		<input type="checkbox"/>
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input type="checkbox"/>

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

飲食店

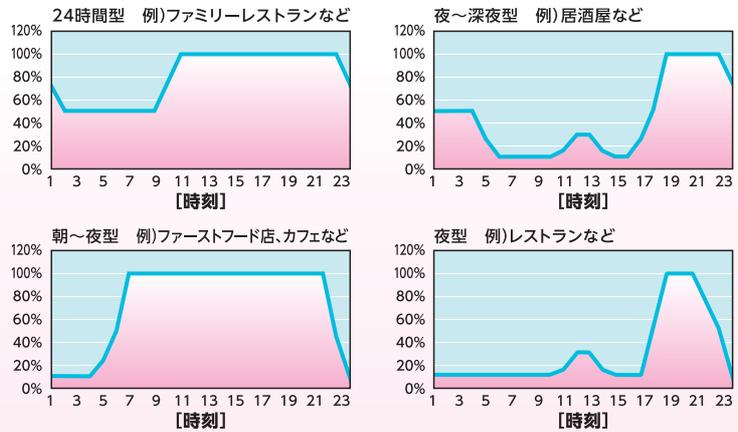
ファミリーレストラン、
居酒屋、ファーストフード店

の場合

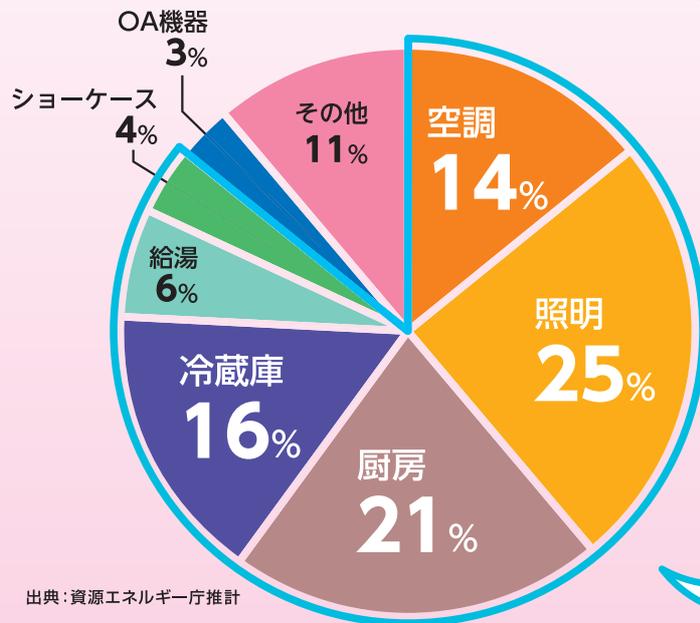
1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

24時間型・昼型・夜型など
営業種別により営業時間帯が
異なり、外気温や入客状況に
応じて電力消費の状況が
大きく異なります。

飲食店における電力需要カーブの事例



出典：資源エネルギー庁推計



出典：資源エネルギー庁推計

飲食店における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、空調が約14%、
照明が約25%、厨房機器
(給湯、冷蔵庫、ショーケース等)で
約47%を占めます。

空調、照明、厨房機器等で
約86%

これらで電力消費のうち約86%を占めるため、
空調・照明・厨房機器(給湯、冷蔵庫、ショーケース等)の
電力使用を見直すことが効果的です。

P18の節電メニューをご利用ください。

●「飲食店」の節電メニュー

3つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	使用していないエリア(事務室等)や不要な場所(看板、外部照明等)の消灯を徹底し、客席の照明を半分程度間引きする。	10%	<input checked="" type="checkbox"/>
空調	店舗の室内温度を19℃とする。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>
厨房	冷凍冷蔵庫の庫内は詰め込みすぎず、庫内の整理を行うとともに、温度調節等を実施する。	1%未満	<input checked="" type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input checked="" type="checkbox"/>
空調	使用していないエリアは空調を停止する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>
	暖気を逃がさないよう、断熱フィルム、夕方以降は厚手のカーテン等を活用する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	ハロゲンヒーターなど、電熱線系の暖房機器の利用を避ける。		<input checked="" type="checkbox"/>
厨房	使用していない機器(調理機器など)のプラグを抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>
	調理機器の設定温度の見直しを行う。		<input checked="" type="checkbox"/>
	業務用冷蔵庫のドアの開閉回数や時間を低減し、冷気流出防止ビニールカーテンを設置する。		<input checked="" type="checkbox"/>
コンセント動力	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。		<input checked="" type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		<input checked="" type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
従業員への節電の啓発も大事です			
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		<input checked="" type="checkbox"/>
	節電担当者を決め、責任者(店長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>

ご注意

●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

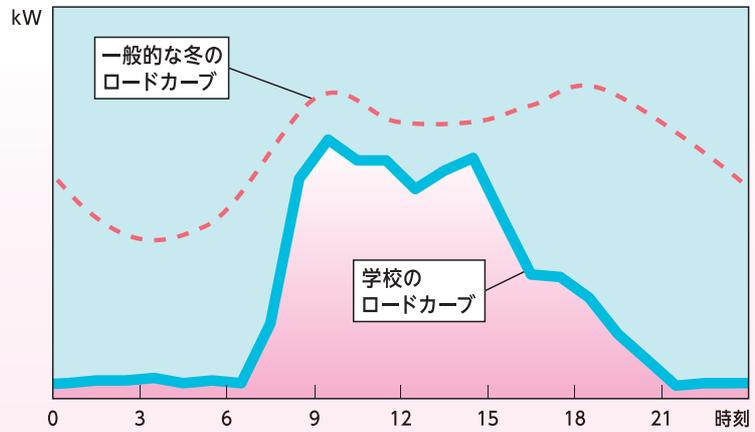
学校 [小中高]

の場合

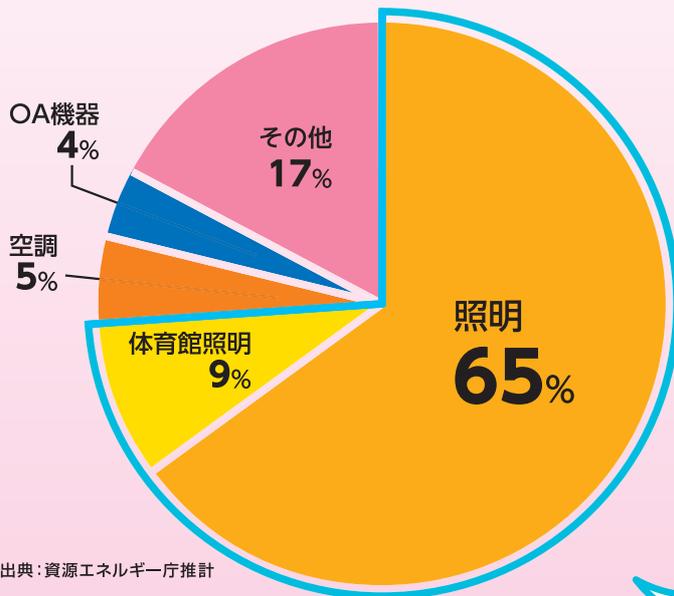
1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

平均的な学校においては、
日中(9時~17時)に
高い電力消費が続きます。

公立小学校(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典:資源エネルギー庁推計



一般的な学校における用途別電力消費比率

電力消費の内訳

(冬期のピーク時断面(例))

教室部分に電気を使う暖房機器を
設置していない場合が多いため、
照明の比率が高くなっていますが、
電気を使う空調(エアコン等)を
設置している学校については
空調の比率が高くなることに留意が
必要です。

照明で約74%

これらで電力消費のうち約74%を占めるため、
照明の電力使用を見直すことが効果的です。

P20の節電メニューをご利用ください。

● 「学校」の節電メニュー

照明での基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	教室、職員室、廊下の照明を間引きする。	15% (約4割減の場合)	<input checked="" type="checkbox"/>
	点灯方法や使用場所を工夫しながら体育館の照明を1/4程度間引きする。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		<input checked="" type="checkbox"/>
	体育館等で使われる水銀ランプを、セラミックメタルハライドランプに交換する。 (水銀ランプをセラミックメタルハライドランプに交換した場合、約50%消費電力削減。)		<input checked="" type="checkbox"/>
空調	使用していないエリア(教室、音楽室等)は空調を停止する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	暖気を逃がさないよう、断熱フィルム、夕方以降は厚手のカーテン等を活用する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		<input checked="" type="checkbox"/>
	特別教室(音楽室、コンピュータ室等)は連続利用する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>
コンセント動力	待機電力を削減する。(特に冬休み中はパソコン、テレビ等のプラグをコンセントから抜く。)		<input checked="" type="checkbox"/>
	献立や調理の工夫により食器等を減らして食器洗浄機を使用したり、熱風保管庫の使用時間帯をシフトするなど、ピーク電力を抑制する工夫をする。		<input checked="" type="checkbox"/>
その他	手洗い等、水の流し放し、水の出しすぎに注意する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	節水こま、泡沫水洗を使用する。		<input checked="" type="checkbox"/>
学校関係者への節電の啓発も大事です			
節電啓発	児童・生徒等に対する節電教育を行い、児童・生徒等の自発的な活動を推進する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	節電担当を決め、責任者(校長先生等)と関係者が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	学校関係者に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

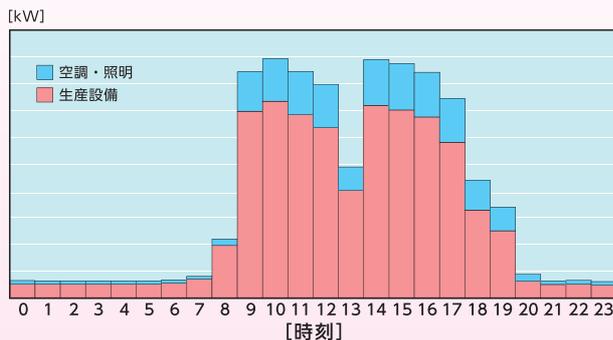
製造業

の場合

1日の電気の使われ方(冬期のピーク日)

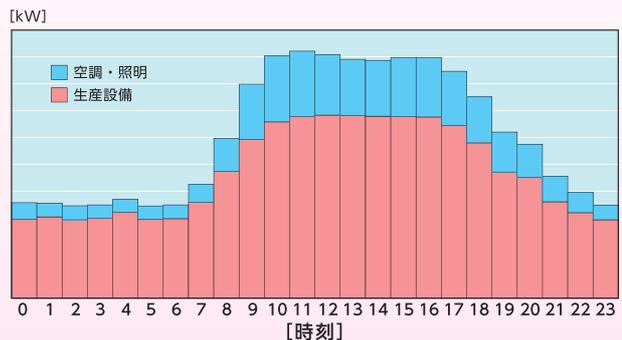
●昼間操業の需要家(一般的な稼働時間)

主な業種: 金属加工、自動車部品製造、
電気・一般機械製造(組立)など
負荷設備: 生産機械、電気炉、空調・照明など

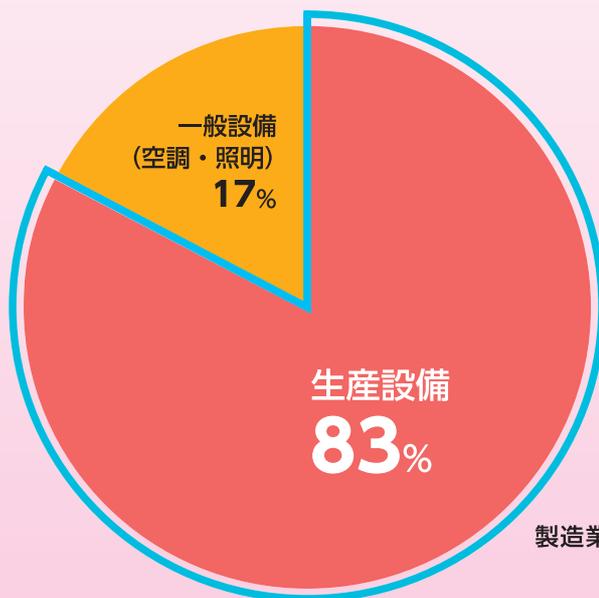


●昼夜連続操業の需要家(高い稼働時間)

主な業種: 食品加工、電気・半導体製造など
負荷設備: 生産機械、空調・照明、クリーンルーム、
冷凍・冷蔵設備など



出典: 資源エネルギー庁推計



電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

電力消費のうち、生産設備が占める割合が高くなっていますが、生産活動に影響を与えないよう、一般設備を中心に節電に取り組んでください。

製造業の用途別電力消費比率事例

生産工程や納期、必要な生産環境(空調)に応じて
電力消費形態が異なります。

P22の節電メニューをご利用ください。

● 「製造業」の節電メニュー

※製造業は種別ごとに電力使用の形態が大きく異なるため、各設備ごとの節電率を記載しています。

生産設備の節電メニュー		建物全体に対する節電効果	実行チェック
不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。		-	<input checked="" type="checkbox"/>
電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果:保温施工の実施例)		7%	<input checked="" type="checkbox"/>
ユーティリティ設備の節電メニュー			
使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果:単機における0.1MPa低減時)		8%	<input checked="" type="checkbox"/>
コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合いする]。 (節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)		2%	<input checked="" type="checkbox"/>
負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果:コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合)		9%	<input checked="" type="checkbox"/>
インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)		15%	<input checked="" type="checkbox"/>
冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)		8%	<input checked="" type="checkbox"/>
一般設備(照明・空調)の節電メニュー ※生産活動への影響が少ない下記の一般設備を中心に、節電をお願いいたします。			
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。	-	<input checked="" type="checkbox"/>
	白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。 (節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明、に交換した場合)	①76% ②85%	<input checked="" type="checkbox"/>
空調	工場内の温度を19℃とする。 (節電効果:室内温度設定を3℃下げた場合)	27%	<input checked="" type="checkbox"/>
	外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 (節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)	34%	<input checked="" type="checkbox"/>
その他の節電メニュー			
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的実施することでロスを低減する。		<input checked="" type="checkbox"/>
節電啓発	節電担当を決め、責任者(社長・工場長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>
生産用動力の稼働シフトによる電力ピーク抑制			
稼働シフト	生産用動力の起動を節電時間帯の前にシフトする。		<input checked="" type="checkbox"/>
	事務作業等の時間を調整し、電力ピークをシフトする。		<input checked="" type="checkbox"/>
	需給調整契約(料金インセンティブ)に基づく操業シフト。		<input checked="" type="checkbox"/>

ご注意

●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。●空調については電気式空調を想定しています。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

[節電メニューの記載例]

ー オフィスビル 記載例 ー

自社の実状に応じてアレンジして下さい。

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行チェック
照明	執務エリアの照明を 半分程度 引き下ろす。 <small>4分の1</small>	48%	<input checked="" type="checkbox"/>
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3%	<input checked="" type="checkbox"/>
空調	テナントは空調のスイッチを切り、オーナーはビル全体が適切な温度になるように調整を行う等、適切な温度管理を行う(P27参照)	4% <small>(3%下げた場合)</small>	<input checked="" type="checkbox"/>
	使用していないエリアは空調を停止する。	1%未済	<input type="checkbox"/>
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	2%	<input checked="" type="checkbox"/>
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください			
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	4%	<input type="checkbox"/>
	夕方以降はブラインド、カーテンを閉め、暖気を逃がさないようにする。	1%	<input checked="" type="checkbox"/>
	熱源機(ガス熱源は除く)の温水出口の温度を低めに設定し、熱源機ヒートポンプ等の動力を削減する。	1%	<input type="checkbox"/>
	空調機器の一斉の起動を避ける。(運転時間前倒し、フロア毎の時間調整等)	4% <small>(1時間程度の効果)</small>	<input type="checkbox"/>
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。 <small>4分の1の照明を従来型蛍光灯からHf蛍光灯に交換する。</small>		<input checked="" type="checkbox"/>
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)	$33\% \times (1/4) \times 40\% = \text{約}3\%$	<input checked="" type="checkbox"/>
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)		<input checked="" type="checkbox"/>
	電気室、サーバー室などで冷房を使う際は、 自社の実状に応じてフォーマットの対策・数値を 入れる。または、空調設定温度が低すぎないように アレンジしていただいて結構です。		<input type="checkbox"/>
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそれらを優先運転する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	暖房と冷房の同時使用による室内混合損失を避ける(P27参照)		<input type="checkbox"/>
コンセント動力	ハロゲンヒーター等の暖房機器を個人で使用しない。		<input type="checkbox"/>
	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げる	本計画に盛り込む節電メニューを選びましょう(✓)。 ※基本アクションはできるだけ盛り込みましょう。 ※実施できないメニューを盛り込む必要はありません。	<input type="checkbox"/>
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く		<input type="checkbox"/>
	自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定を守る		<input type="checkbox"/>
その他	デマンド監視装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		<input type="checkbox"/>
	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		<input type="checkbox"/>
従業員やテナントへの節電の啓発も重要です			
節電啓発	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。(P27参照)		<input type="checkbox"/>
	節電担当を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input type="checkbox"/>
	従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input type="checkbox"/>

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

▲10%以上を目指した節電の取組例<関西電力管内>

オフィスビルの場合

執務エリアの照明を半分程度間引き ————— ▲ 8%
設定温度を19℃にするなど、適切な空調利用を徹底 — ▲ 4%
= 合計 ▲12%

ドラッグストア(卸・小売店)の場合

店舗の照明を1/4程度間引き — ▲ 5% (=▲10%×1/2)
空調の設定温度を19℃に ——— ▲ 8%
= 合計 ▲13%

食品スーパーの場合

店舗の照明を1/4程度間引き ————— ▲ 5%
業務用冷凍・冷蔵庫の台数を限定、
冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、
凝縮器の洗浄 ————— ▲ 6%
= 合計 ▲11%

シティホテル(ホテル・旅館)の場合

客室以外の照明を半分程度間引き ————— ▲14%

学校(小中高)の場合

教室、職員室、廊下等の照明を3割程度間引きする ——— ▲11%
(=▲15%×3/4)

今冬の電力需給対策について、 よくあるご質問をまとめました。

Q. 夏の東京・東北電力管内と同様に、電気事業法第27条に基づく電気の使用制限があるのでしょうか。

A. 今冬の需給バランスによれば、融通を効果的に行うこと等により対応が可能であり、電気事業法第27条に基づく電気の使用制限は行いません。自主的な節電としてご協力をお願いいたします。

Q. 関西電力管内に節電の実施が困難な設備を保有しております。10%以上の節電目標を達成できない場合に罰則などがあるのでしょうか。

A. 自主的な節電のお願いであり、罰則の適用はありません。生産部門においては、生産活動に実質的な影響が生じない範囲で自主的な目標を設定していただき節電をお願いいたします。その場合、事務所などのいわゆる業務部門においては、「10%以上(九州電力管内の場合、5%以上)を上回る」節電へのご協力をお願いいたします。

Q. 単独の事業所では節電目標の達成が困難である場合、企業グループとして目標達成に取り組むことは可能でしょうか。その場合、夏と同様の申請が必要でしょうか。

A. 電力会社管内（例えば、関西電力管内）において、共同で節電目標を設定して頂き、取り組んで頂くことも可能です。なお、申請手続は必要ありません。

Q. 今冬必要とされるのは、夏と同様に使用最大電力(kW)の抑制でしょうか、それとも電気の使用量(kWh)の抑制でしょうか。

A. 使用最大電力(kW)の抑制をお願いいたします。1日(24時間)を通じた電気の使用量(kWh)の合計の抑制ではありません。

Q. 関西電力管内において10%の節電を行う場合に、基準となる電力の値はどのように考えれば良いでしょうか。また、その値はどのようにすれば知ることができるのでしょうか。

A. 前年同月の使用最大電力(kW)の値等を目安とした基準から、10%以上(九州電力管内の場合、5%以上)の節電をお願いいたします。また、前年同月の値については、検針票や電力会社からのお知らせ、または電力会社にお問い合わせをして頂ければ把握することができます。

ビルオーナー・テナントの皆様へのお願い

■テナントの皆様へのお願い

照明

オーナーとご相談頂き、ビル全体として適度な明るさになるよう照明の間引きや照度の低下等の節電をお願い致します。

空調

個別の空調のスイッチをオフにして下さい(オーナー側で空調を集中管理する場合)。「19℃設定」にすると、オーナーが管理するビル全体の暖房と相まって、自動的に冷房が起動する可能性があります。(下図参照)

■ビルオーナーの皆様へのお願い

照明

- ①労働安全衛生法上の照度基準の下限値(300ルクス)を基本にビル全体で調整していただくようお願い致します。(例:750ルクス→400ルクス)
- ②ビル全体として適度な照度となるよう照明の間引きや照度の低下等、テナントの皆様へのお声掛けをお願い致します。

空調

- ①可能な限り電気以外(ガス・石油等)を使用いただくとともに、特に窓際に設置されている空調機器(ペリメーター系)を使用される場合には、冷暖房同時運転による室内混合損失を回避するため(下図参照)、建物全体が適切な温度(19℃)になるようペリメーター系温度設定を室内中心部(インテリア系)の空調温度設定より低くする、午後に温度が上昇したらペリメーター系のスイッチを切る等の対策をお願い致します。

注)空調方式によって対策が異なりますので設備管理者とご相談下さい。

- ②テナントの皆様には、不要な個別空調のスイッチをオフにしていただく等のお声掛けをお願い致します。(可能な場合はオーナー様で空調の集中管理をお願い致します。)

照明

CO₂濃度を管理して頂き、建築物衛生法及び労働安全衛生法上の室内CO₂濃度基準(1,000ppm以下)をベースとし、過度な換気による暖房効率の低下とならないようお願い致します。

室内混合損失のケース(例)



午後になり気温が上がると冷房が自動的に起動し、エネルギー効率が非常に悪い状態が発生します。

携帯電話への需給ひっ迫お知らせサービス

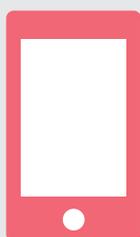
携帯電話の場合



お手持ちの携帯電話で、こちらのQRコードを撮影し、登録サイトにアクセスしてください。
メールにて電力需給ひっ迫警報の発出をお知らせいたします。



スマートフォンの場合



お手持ちのスマートフォンに“節電アクション”アプリケーションをインストールしてください。
電力需給ひっ迫警報の発出についてお知らせを通知します。



●Androidの場合

Android Marketにアクセスし、“節電アクション”を検索してダウンロード
もしくは



Android Marketのページへリンクします

●iPhoneの場合

App Storeにアクセスし、“節電アクション”を検索してダウンロード
もしくは



App Storeのページへリンクします

※Android、Android Marketは、Google Inc.の登録商標または商標です。

※iPhoneはApple Inc.の商標です。

※App Storeは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。

本サービスはいずれも無料となります。ただし、ダウンロード、通信には、別途パケット費用がかかります。

〈お問い合わせ〉

政府では、今冬の節電へのご協力のお願いに関する情報を政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」で紹介しています。

政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」

<http://www.setsuden.go.jp>

節電に関する様々なお問い合わせに、専門ダイヤルでお答えします。

節電ダイヤル

TEL.0570-064-443

(受付時間9:00～17:00)

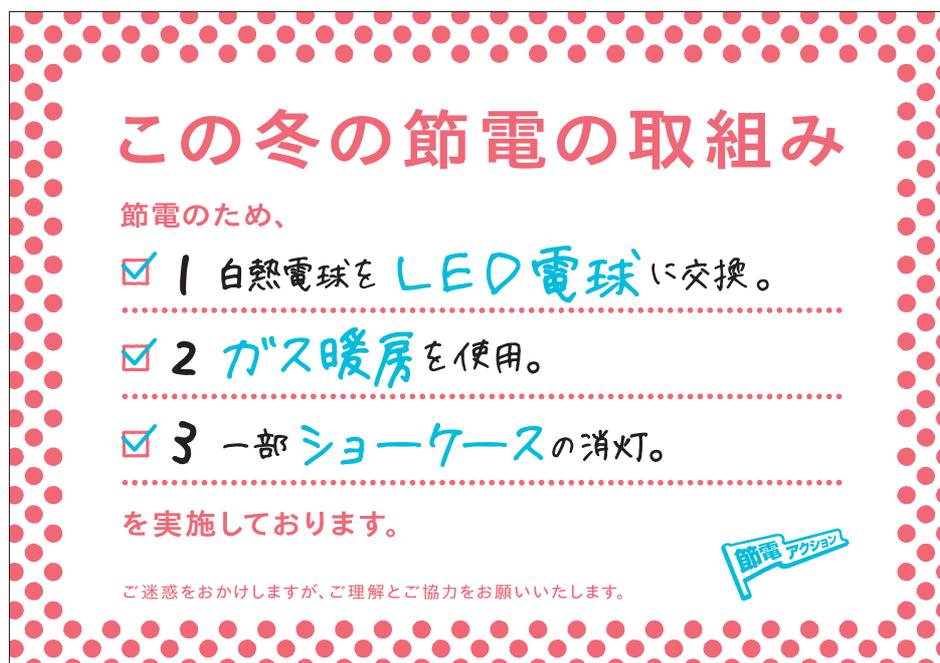
土・日・祝・年末年始(12月29日～1月3日)を除く

節電ポスターの使い方

ご記入いただいたポスターを、事務所や店舗の見やすい場所に掲示してください。

※会社名や事業所名を書いてご利用いただけるタイプもご用意しています。

【ポスター記入例】



この冬の節電の取り組み

節電のため、



.....



.....



.....

を実施しております。



ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

では節電のため、

.....



.....



.....



.....

を実施しております。



ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。